

**アガルートアカデミー**

**早稲田大学ビジネススクール  
(MBA)小論文試験 解答速報**



# 解答速報:問題1解答例



- 同族企業の場合、マキャヴェッリの言明は当てはまる。
- 内部昇進や外部から迎えられたり買収によってトップになった人が地位を守るために、所有者支配から経営者支配に移行させるために、経営者は経営の専門的知識・スキルを身に付ける必要がある。

※日本の法人税法では、上位3株主の持ち株比率をあわせて50%を超え、その株主が経営している会社を「同族会社」と定義している。

バーリ&ミーンズ（1932）の「所有と経営との分離」により「専門経営者」の登場を促した。「所有者支配から経営者支配へ」基礎講座1回目 & 2回目

# 解答速報：問題2解答例



- 「変革というものはひとたび起きると必ず次の変革を構築する」という言明は、現代のビジネスにかなり当てはまる。
- 経営の事例：予備校編
  - 通学専門の予備校→動画配信専門の予備校→通学動画にハイブリッド型予備校
- 経営の事例：携帯電話
  - 小型携帯電話発売（1990年）→着メロ（1996年）→ショートメッセージサービス（1997年）→iモード（1999年）→カメラ付き（2000年）→お財布ケータイ（2004年）→ワンセグ（2006年）→スマホiPhone（2008年）

クリステンセン（2001）の「持続的イノベーション」「破壊的イノベーション」  
基礎講座4回目

# 解答速報：問題3解答例



- それほど当てはまらない。なぜなら、備えているように見せかけても、それはすぐにバレてしまうからである。
- では、リーダーとしての資質に欠ける部分がある時は、どのように対処すべきか？すべてを備えた完璧なリーダーは存在しないので、欠けている資質を補う魅力が必要なのである。
- 私が考える現代のリーダーは、従業員みんなに助けてやろうと思わせる魅力のある人である。この人がいたら自分が居なくとも大丈夫だと思われた人は、あまり成功していない。会社の社長というのは、うちにはあの社長がいるから任せておけば大丈夫だと思われる社長は大した社長ではないのである。それだと社員が働くくなってしまうからである。そのため、あの社長は我々が居なければ潰れちゃうからと思わせる程度が、リーダーとしては正しいと私は考えている。